

スポーツ健康学部

I 2018年度 大学評価委員会の評価結果への対応

【2018年度大学評価結果総評】(参考)

スポーツ健康学部は、卒業生アンケート調査報告書等からも、学部満足度が高く、教育内容やカリキュラム、設備に関する満足度も高く、少人数による質の高い教育が展開されていることが示されている。

但し、この3年間、定員超過傾向にあり、適正な教育環境を維持するためにも定員管理の改善を期待したい。また、健全な状態を維持し、発展させていくためにも、PDCAサイクルを実質化していくことが重要と考える。昨年度、3コースのコース長が質保証委員となり、質保証委員会を開催している。質保証委員会では、オンデマンド授業の遅れや留学生受け入れの遅れが指摘されており、その点では、PDCAサイクルが有効に機能していると評価できる。2018年度から新カリキュラムが開始されていることもあり、その点でも、内部質保証の体制や取り組みをさらに強化、具体化することによって、今後の教育の質のさらなる維持と向上が図られることを期待したい。

【2018年度大学評価委員会の評価結果への対応状況】

2019年度入学者数が定員2名超過の167名と改善された。適正な教育環境を維持していくために今後も定員管理を継続する。また、質保証委員会で指摘された留学生の受け入れの遅れについては、2019年度入学者数が定員の2名を満たしたのでこれを維持していく。そして内部質保証の体制や取り組みによって2018年度から開始された新カリキュラムの質を維持・向上させるように努めている。

【2018年度大学評価委員会の評価結果への対応状況の評価】

2018年度の評価結果では「定員管理の改善」を求められていたが、これについては2019年度入試における定員超過が2名にとどまっており、改善が進んでいると評価できる。ただし定員超過についての問題は必ずしも各学部だけに帰せるものではないので、今後とも入学センターと協力しながら適切に対応していただきたい。また、2019年度留学生入試における入学者数定員を満たしたことも評価できる。

II 自己点検・評価

1 教育課程・学習成果

【2019年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

1.1 教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。

①学生の能力育成のため、教育課程の編成・実施方針に基づいた教育課程・教育内容が適切に提供されていますか。

S  A B

※教育課程の編成・実施方針との整合性の観点から、学生に提供されている教育課程・教育内容の概要を記入。

視野形成科目、専門基礎科目、専門基幹科目、専門科目、専門演習科目と段階的に教育課程が提供されている。入学した学生が体育学、健康科学、スポーツビジネスの基礎を学び、その上で自分の興味・関心に合った専門的な知識・技能が得られるような教育内容にしている。特に演習科目においては少人数教育を実践している。

【根拠資料】※カリキュラムツリー、カリキュラムマップの公開ホームページURLや掲載冊子名称等

・ <https://www.hosei.ac.jp/sports/gakka/curriculum.html>

②学生の能力育成の観点からカリキュラムの順次性・体系性を確保していますか。

S  A B

※カリキュラム上、どのように学生の順次的・体系的な履修(個々の授業科目の内容・方法、授業科目の位置づけ(必修・選択等)含む)への配慮が行われているか。また、教養教育と専門科目の適切な配置が行われているか、概要を記入。

1年次、「スポーツ健康学入門」で大学生活を送る上で必要な知識と学習に必要な能力を身につけ、教養として身につけておくべき「視野形成科目」も学ぶ。その上で2年次、「ヘルスデザインコース」「スポーツビジネスコース」「スポーツコーチングコース」の3コースから将来を見据えたコースを選択し、より専門性の高い授業を受講できるカリキュラム編成としている。同時に専任教員の専門演習(ゼミナール)に参加することでさらに高い専門分野の学びを可能にしている。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

・ 本学部ホームページ <https://www.hosei.ac.jp/sports/gakka/curriculum.html>

・ 2018年度専門演習募集要項

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

<p>③幅広く深い教養および総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養する教育課程が編成されていますか。</p>	<p>S <input checked="" type="checkbox"/> A B</p>
<p><u>※カリキュラム上、どのように教養教育等が提供されているか概要を記入。</u></p> <p>「人間とスポーツ」、「生命倫理」などの人文社会系の科目から、「統計学」、「情報リテラシー」といった自然科学系の科目まで、本学部の学生として基礎となる幅広い科目を用意している。また、1年次に必修として用意されている「スポーツ健康学入門」では、大学生活への適応力を身につける。専門的な科目を受講する前提として、体育学及び健康科学分野の基礎となる「スポーツ運動学Ⅰ」、「機能解剖学」などの科目から、「スポーツ哲学」、「スポーツマネジメント論」などの科目まで幅広く配し、健康科学と社会との関わりを習得できるよう配慮している。コース科目を受講する前提として、専門科目の3つのコース科目の土台となる科目を配し、1つのコースに偏ることなく学際的な領域を学ぶことができるよう配慮している。</p>	
<p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>法政大学スポーツ健康学部 設置の趣旨等を記載した書類</li> </ul>	
<p>④初年次教育・高大接続への配慮は適切に行われていますか。</p>	<p>S <input checked="" type="checkbox"/> A B</p>
<p><u>※初年次教育・高大接続への配慮に関し、どのような教育内容が学生に提供されているか概要を記入。</u></p> <p>初年次教育として「スポーツ健康学入門」を初年次春学期の必修科目とし、栄養教育、飲酒・薬物の理解から始まり、リテラシー（含む図書館利用）、プレゼンテーション、ライティング（レポート）の方法など大学の専門科目を履修するために必要な能力、さらに留学や大学院進学に関する情報まで提供している。また、付属校あるいは要請のあった高校へは教員を派遣し、模擬授業を通し大学講義の一部を提供している。</p>	
<p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>2019年度スポーツ健康学部シラバス</li> </ul>	
<p>⑤学生の国際性を涵養するための教育内容は適切に提供されていますか。</p>	<p><input checked="" type="checkbox"/> S A B</p>
<p><u>※学生に提供されている国際性を涵養するための教育に関し、どのような教育内容が提供されているか概要を記入。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「スポーツ健康学海外演習」として提携校である米国のボイシー州立大学へ短期留学を毎年実施している。</li> <li>ERP あるいはグローバルオープン科目を開設し運営している。</li> </ul>	
<p><b>【2018年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】</b> ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>2019年度より「スポーツビジネス海外演習（米国、NYC）」、「スポーツコーチング海外演習（欧州）」を開設できるようにした。</li> <li>外国人客員教員（短期）を招く準備を進めた。</li> <li>外国人教員および留学経験をもつ教員を積極的に採用し、海外の最新情報を教育に反映できるようにした。</li> </ul>	
<p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>2019年度スポーツ健康学部履修の手引き</li> </ul>	
<p>⑥学生の社会的および職業的自立を図るために必要な能力を育成するキャリア教育は適切に提供されていますか。</p>	<p>S <input checked="" type="checkbox"/> A B</p>
<p><u>※学生に提供されているキャリア教育に関し、どのような教育内容が提供されているか概要を記入。</u></p> <p>キャリア教育としては、教員がスポーツ・健康関連企業に関する情報提供や、「専門演習」「実習科目」を通してのインターンシップの奨励、サポートを行っている。</p>	
<p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>特になし</li> </ul>	
<p>1.2 学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。</p>	
<p>①学生の履修指導を適切に行っていますか。</p>	<p><input checked="" type="checkbox"/> S A B</p>
<p><b>【履修指導の体制および方法】</b> ※箇条書きで記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学生への履修指導は、学年ごとに「新年度ガイダンス」「春学期終了ガイダンス」「秋学期終了ガイダンス」を開催している。各種資格については個別の「資格ガイダンス」を行い、必要に応じて学年を分けるなどきめ細かな指導に取り組んでいる。</li> </ul>	
<p><b>【2018年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】</b> ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>1年次「スポーツ健康学入門」の中で3つのコースの教育・研究内容を新たに紹介することで学生の履修を援助した。</li> </ul>	
<p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p>	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基礎的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

・2019年度スポーツ健康学部履修の手引き	
②学生の学習指導を適切に行っていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>※取り組み概要を記入。</p> <p>通常授業・演習を問わず、授業内容が当学部の学生に共通する進路に関係するような場合は、学習意欲や進路を考える際の一助となるよう、公開授業にするなどの工夫をしている。また「専門演習」においてはインターンシップや現場実習も取り入れ、社会と密接に関わっているスポーツ・健康分野ならではの学習研究と、将来の目標設定を実践の中で並行しながら考えられるよう、多様な場や機会を設けている。また各教員のオフィスアワーを明確にしている。それ以外の時間も、学生の研究室への訪問が容易になっており、履修相談・進路相談に随時、適切な対応を行っている。欠席の多い学生や、提出物に不備が多い学生には連絡・面接等を行い、学生の状況を常に把握するよう努めている。</p> <p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・特になし</p>	
③学生の学習時間（予習・復習）を確保するための方策を行なっていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>※取り組み概要を記入。</p> <p>・学生の学習時間（予習・復習）の確保については、シラバスの内容に沿って適宜、促している</p> <p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・2019年度シラバス</p>	
④教育上の目的を達成するため、効果的な授業形態の導入に取り組んでいますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p><b>【具体的な科目名および授業形態・内容等】</b> ※箇条書きで記入（取組例：PBL、アクティブラーニング、オンデマンド授業等）。</p> <p>・特に実習科目においては、学生自身が考え、実践する中で知識や情報を得たり、学生同士で相互評価をしたりするなどの活動を通して学習を深められるよう取り組んでいる。</p> <p>・授業前に簡単な質問をすることで、これから学ぶ内容の現在の理解度を自覚させている。</p> <p>・演習科目については、自ら課題を選択し、調査し、報告することを課題とし、学生主体のアクティブな学習形態としている。</p> <p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・特になし</p>	
⑤それぞれの授業形態（講義、語学、演習・実験等）に即して、1授業あたりの学生数が配慮されていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>※どのような配慮が行われているかを記入。</p> <p>・専門演習では1学年あたり10名前後の人数で編成されることを原則としている。</p> <p>・機材を必要とする実習あるいは実験科目では事前に人選し履修人数を調整している。</p> <p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・2019年度シラバス、スポーツ健康学部履修の手引き</p>	
1.3 成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	
①成績評価と単位認定の適切性を確認していますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p><b>【確認体制および方法】</b> ※箇条書きで記入。</p> <p>・成績評価と単位認定については、各教員がシラバスの成績判定記載に基づいて適切に行っている。</p> <p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・2019年度シラバス</p>	
②厳格な成績評価を行うための方策を行っていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>※取り組み概要を記入。</p> <p>・成績評価を筆記試験だけでなく、通常授業時の小テストやアンケートなど、常に学生からのリアクションを得ることにより、理解度とともに物事に取り組む姿勢なども総合的に評価している。</p> <p>・科目毎のGPAを提供し、成績評価の偏りを教員が把握するようにしている。</p> <p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・2019年度シラバス</p>	
③学生の就職・進学状況を学部（学科）単位で把握していますか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

<p>※データの把握主体・把握方法・データの種類等を記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1年生から3年生には取得を希望する資格の調査を行っている。</li> <li>・4年生については、進路希望・内定獲得先・最終的な進路を4月のガイダンス、夏休みに入る前、冬休みに入る前の3回調査を行い、集計結果を教授会において共有している。</li> <li>・最終的な就職情報はキャリアセンターからの報告を得て教員に周知している。</li> </ul> <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教授会資料</li> </ul>	
<p>1.4 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。</p>	
①成績分布、進級などの状況を学部（学科）単位で把握していますか。	はい <input checked="" type="checkbox"/> いいえ
<p>※データの把握主体・把握方法・データの種類等を記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・成績分布、科目毎の不合格者、進級状況については集計しその情報資料を教授会において共有している。</li> </ul> <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教授会配付資料</li> </ul>	
②分野の特性に応じた学習成果を測定するための指標の適切な設定または取り組みが行われていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> B
<p>※取り組みの概要を記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コース毎に学年別成績一覧を提示し、GPAの分布などの情報を教授会で共有し、各コース毎に学習成果を確認している。</li> </ul> <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2018年度教授会資料</li> </ul>	
③具体的な学習成果を把握・評価するための方法を導入または取り組みが行われていますか。	<input checked="" type="checkbox"/> S A B
<p>※取り組みの概要を記入（取り組み例：アセスメント・テスト、ルーブリックを活用した測定、学修成果の測定を目的とした学生調査、卒業生・就職先への意見聴取、習熟度達成テストや大学評価室卒業生アンケートの活用等）。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・年度の初めに、前学年で開講された必修科目の内容について「習熟度テスト」を実施している。</li> <li>・教育成果の定期的な検証を行い、学習成果については、特に学生の課外活動等における自主的な取組への参加、また卒業研究の発表会によって行っている。</li> </ul> <p>【2018年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1年生は新カリキュラムに応じるように、また2年生にはコースの要望に応じるように「習熟度テスト」を改訂した。</li> </ul> <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特になし</li> </ul>	
④学習成果を可視化していますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> B
<p>※取り組みの概要を記入。取り組み例：専門演習における論文集や報告書の作成、統一テストの実施、学生ポートフォリオ等。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学年別の成績一覧表を作成し、教授会で配布している。</li> <li>・上記項目で回答したように必修科目について「習熟度テスト」を実施している。</li> <li>・また専門演習Ⅲでは、優秀発表者を選出して表彰している。</li> </ul> <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2018年度教授会資料</li> </ul>	
<p>1.5 教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みも行っているか。</p>	
①学習成果を定期的に検証し、その結果をもとに教育課程およびその内容、方法の改善に向けた取り組みを行っていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> B
<p>※検証体制および方法、改善・向上に向けた取り組みの概要を記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学生の学年別の成績経過を一覧表にして、成績の変遷を視覚化し検証している。</li> <li>・特に問題と思われる学生に対してはゼミ担当教員あるいは執行部教員が個別指導を実施している。</li> </ul> <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2018年度教授会資料</li> </ul>	
②学生による授業改善アンケート結果を組織的に利用していますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> B

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

※利用方法を記入。

- ・ 学生がウェブ上で回答した授業改善アンケートの結果は執行部が確認し、必要に応じて対応するようにしている。
- ・ 自由記載された学生の意見などの情報は、教授会で共有している。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・ 2018年度教授会資料

(2) 長所・特色

内容	点検・評価項目
・ 特になし	

(3) 問題点

内容	点検・評価項目
・ 前年度からの課題であるオンデマンド授業の取り組みが遅れている。	

【この基準の大学評価】

①教育課程・教育内容に関すること (1.1)

スポーツ健康学部では、学生の能力育成のために、適切な教育課程、教育内容が提供されており、1年生から4年生までのカリキュラムの順次性・体系性が確保されている。特に、学生の国際性を涵養するための学部としての積極的な取り組み（2つの海外演習科目の新規開設、外国人教員や留学経験のある教員の積極的採用など）は高く評価できる。また、2018年度に初めて1名の留学生を受け入れ、2019年度には2名受け入れており、サポートも適切に実施されている。付属校や要請があった高校へは教員を派遣し模擬授業を実施し、初年次教育として「スポーツ健康学入門」を必修科目とするなど、初年次教育・高大接続に配慮している。キャリア教育として、教員がスポーツ・健康関連企業に関する情報提供や、「専門演習」「実習科目」を通してのインターンシップの奨励、サポートを行っている点は、本学部の優位性を保つ意味で高く評価したい。

②教育方法に関すること (1.2)

スポーツ健康学部の履修指導や学習指導については、学年ごとに様々な機会をとらえ、きめ細かな指導の仕組みが構築されている。特に2018年度には、1年次「スポーツ健康学入門」の中で3つのコースの教育・研究内容を新たに紹介して、学習指導体制の強化に努めたことは評価できる。また同科目では、講義内容により、履修者全員で行う大規模授業と8つのクラスに分割する小規模授業を併用する等、効果的な授業形態を導入している。学生の学習時間の確保については、シラバスの内容に沿って適宜促しているほか、情報資料室や実習室、営業時間外の食堂等を自習室として開放し、隙間時間の学習環境を提供している。またそれぞれの授業形態の特徴に即して、1授業あたりの学生数や授業内容に工夫や配慮がなされていて、丁寧な学習指導が行われていることが認められる。

③学習成果・教育改善に関すること (1.3～1.5)

スポーツ健康学部の成績評価と単位認定は、各教員がシラバス記載の成績判定基準に基づいて適切かつ厳格に行われている。学生の成績分布や卒業後の進路などは教授会を通じ教員間で情報の共有化が図られている。学習成果の把握・評価については、必修科目の内容について進級時全員に「習熟度テスト」を実施して理解度を確認するほか、学生の課外活動等における自主的な取り組みへの参加、また卒業研究の発表会など、工夫が見られる。学習成果の可視化については、教授会でデータを共有しており、これらの検証やそれをもとにした教育方法の改善に向けた取り組みがなされている。授業改善アンケート結果は、執行部が確認し、自由記述欄の学生の意見は教授会で共有されている。

2 教員・教員組織

【2019年5月時点の点検・評価】

2.1 教員の資質の向上を図るための方策を組織的かつ多面的に実施し、教員及び教員組織の改善につなげているか。

①学部（学科）内のFD活動は適切に行なわれていますか。

S  A B

【FD活動を行うための体制】※箇条書きで記入。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

<ul style="list-style-type: none"> <li>大学のFD委員会の意向を受け、執行部が中心となり進め、質保証委員会が評価し、教授会で承認を得ている。</li> </ul> <p><b>【2018年度のFD活動の実績（開催日、場所、テーマ、内容（概要）、参加人数等）】</b> ※箇条書きで記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>2018年5月29日、B、C会議室、自己点検評価シートについて、16名</li> <li>2019年4月16日、B、C会議室、2018年度自己点検活動について、16名</li> </ul> <p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>2018・2019年度教授会資料</li> </ul>	
②研究活動や社会貢献等の諸活動の活性化や資質向上を図るための方策を講じていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<ul style="list-style-type: none"> <li>毎年「法政大学スポーツ健康学研究」を発行している。</li> <li>総合型地域スポーツクラブである「法政クラブ」に参画している教員からの活動状況を教授会等で共有している。</li> </ul> <p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>法政大学スポーツ健康学研究</li> </ul>	

(2) 長所・特色

内容	点検・評価項目
・特になし	

(3) 問題点

内容	点検・評価項目
・特になし	

**【この基準の大学評価】**

<p>スポーツ健康学部では、FD活動が適切に行われている。年に2回執行部中心に自己点検・評価シートのチェックや前年度の自己点検活動の振り返りを実施しているほか、毎年専任教員全員で「教育方法検討会」を開催しており、2018年度はアクティブラーニングについて議論を深めた。また、10件程度の相互授業参観も行われている。研究活動としては、機関誌である『法政大学スポーツ健康学研究』を刊行し、総合型地域スポーツクラブである「法政クラブ」に参画している教員からの活動状況が教授会等で報告され情報が共有されている。</p>
---

III 2018年度中期目標・年度目標達成状況報告書

No	評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】	
1	中期目標	2018年度から始まった新カリキュラムの質保証に努め、現在の1年生が卒業年度を迎える2021年度には全学年において質の高いスポーツ健康学の学びを提供する。	
	年度目標	学生モニター制度のグループインタビューによって浮かび上がった事項を順次解決する。100分授業を含めた新カリキュラムへ移行することで教育効果を高める。	
	達成指標	過去5年間のGPAを比較し向上されている場合は新カリ変更の効果が著明と判断する（S評価に該当）。または差がない場合には、スムーズに移行されている過程であると判断する（A評価に該当）。	
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
		自己評価	A
理由		2018年度から始まった新カリキュラムは大きな混乱もなく概ね順調に開始されている。昨年度とのGPA平均値の比較においても新カリ対象の1年生が特段の差が認められない。また新入生アンケートにおいても良好な回答を得ている。	
改善策	全学的なGPA結果他学部との比較などを参考に客観的に評価を行いたい。新カリについては、まだ新カリ1年目であることから、この時点で良し悪しの判定を出すことが困難であり、3年後の完成年度で総合的に判断したい。		
	質保証委員会による点検・評価		
	所見	1年生対象の今年度から開始された新カリキュラムに対しては混乱なくGPA平均値で大きな差は認められないことから、順調と判断できる。	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

		改善のための提言	新カリキュラム完成年度に向けて、評価指標とする GPA が維持改善できるよう引き続き教育内容の維持向上を図ることが求められる。
No		評価基準	教育課程・学習成果【教育方法に関すること】
2	年度末報告	中期目標	各教員が、学生の学習意欲を高めるための工夫に取り組む。学部教育の集大成である卒業研究（演習Ⅲ）履修をとおして創造性教育を推進する。
		年度目標	授業相互参観、オンデマンド授業など学習意欲を高めるための工夫を推進する。卒業研究履修者を増加させる。
		達成指標	授業相互参観、オンデマンド授業、リアクションペーパーなどの導入数をカウントし、カウント数の増減で効果を判断する。卒業研究数をカウントし効果を判断する。また学生アンケート結果を参考にし、肯定的意見と否定的意見を比較しこれを指標とする。
		教授会執行部による点検・評価	
		自己評価	B
		理由	中期目標であった卒業研究（演習Ⅲ）履修者数を増やすことができなかった。また年度目標であったオンデマンド授業の実現も先送りとなったことから、この項目は昨年度と変化がなく B 判定とした。
		改善策	現三年生に向けての積極的オリエンテーションで卒業研究に取り組む意義を指導したい。また教員に向けては、授業相互参観、オンデマンド授業などの工夫を推進したい。
質保証委員会による点検・評価			
所見	卒業研究（演習Ⅲ）履修者と授業相互参観の事例件数は大幅な増加に至っていないと判断できる。		
改善のための提言	卒業研究（演習Ⅲ）については専門演習Ⅰ、Ⅱを通じ所属ゼミ生に対し卒業論文を作成するメリットを伝える必要がある。授業相互参観等を通じ、アクティブラーニングなどの指導方法の導入に向けて工夫する必要がある。		
No		評価基準	教育課程・学習成果【学習成果に関すること】
3	年度末報告	中期目標	2018 年度から開始された新カリキュラムおよび 100 分授業移行後の教育効果を測定し評価する。
		年度目標	GPA 平均、習熟度テスト、TOEFL 平均値の向上を目標とする。
		達成指標	科目全体では GPA、必修科目の習熟度テスト、外国語学力では TOEFL 得点で判定する。
		教授会執行部による点検・評価	
		自己評価	A
		理由	100 分授業についての学生からの意見（学生モニター座談会）、また教員からの意見（本学部授業改善懇談会）から提供された情報から、今年度から始まった 100 分授業については概ね順調と思える。
		改善策	次年度もこれらの活動を引き続き奨励し持続させたい。
質保証委員会による点検・評価			
所見	学生の 100 分授業に対する不安感の実施前に比べておおむね解消されており良好と判断できる。		
改善のための提言	次年度以降も引き続き、新カリキュラム及び 100 分授業による成果として、GPA 等の成果が維持または向上するよう工夫することが求められる。		
No		評価基準	学生の受け入れ
4	年度末報告	中期目標	アドミッションポリシーにもとづいた入試制度を準拠し、それぞれの入試制度で定められた受け入れ数を満たすよう努力する。特に留学生の募集人数である各学年 2 名を満たすよう努力し SGU を推進する。
		年度目標	それぞれの入試制度の募集人数を満たす合格者数となるよう努力することを年度目標とする。
		達成指標	それぞれの入試制度で決められた受験者数と入学者数を比較することで達成度を判定する。
	自己評価	S	

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

	理由	アドミッションポリシーにもとづく入試制度に準拠し学生募集を行った。また、次年度は、ほぼ学部で定められている規定数の入学予定数となった。
	改善策	学部で定めた定員数を順守するように入試センターとより頻回（三次査定まで）に情報交換しながら進めほぼ定員数どおりの入学予定者数となった。
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	2018年度に実施した2019年度に向けての入学試験による入学許可は前年度の超過を踏まえ、ほぼ定員通りで充足しており適切と判断できる。
	改善のための提言	今後も、入学定員の充足については、規定数を遵守できるよう判定していくことを望む。
No	評価基準	教員・教員組織
5	中期目標	学部の教育水準を保つための規定教員数を恒常的に確保する。
	年度目標	年間を通して学部専任教員数が維持されていることを年度目標とする。
	達成指標	年度末の学部専任教員数が維持されていることを達成指標とする。
	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	S
	理由	人事委員会にて教員募集あるいは昇格基準を見直し規定を修正した。次年度に向けて教員募集手順に従い人事を起し、コーチングコースの教員補充において優秀な教員を選抜でき赴任が決定された。
	改善策	次年度以降も、欠員の生じた場合には、今年度の事例を参考に人事を進めたい。
	質保証委員会による点検・評価	
所見	コーチングコースにおける教員補充は規定に基づき実施されており、人員の確保も適切であると判断できる。	
改善のための提言	今後も教育水準の確保のため、必要に応じ適切な方法で人員の確保に努めることを望む。	
No	評価基準	学生支援
6	中期目標	学生の抱えている悩みや問題を早期発見し解決に導けるよう支援する体制づくりを整備する。
	年度目標	オフィスタイムを明確化、ゼミ活動を通しての支援、相談窓口を明示する。
	達成指標	学生相談数をカウントする。また、問題解決事例報告を把握する。
	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A
	理由	成績不振にある学生をリストアップし、担当を決めて学生個々に対応した。この結果、学生の抱える諸問題を把握・カウントし適切に対応した。
	改善策	次年度も同じ手順で問題を抱える学生を把握し個々に対応を行いたい。
	質保証委員会による点検・評価	
所見	成績不振者に対する個別指導が定期的実施されており、学生が抱える課題に対応していると判断される。	
改善のための提言	成績不振に陥ることのないよう、各教員が学生相談にのれるようオフィスアワーの活用を図るよう働きかける必要がある。3年生については就職活動に対する対応を教員が情報共有することで、学生の不安を取り除くようにすることが求められる。	
No	評価基準	社会連携・社会貢献
7	中期目標	ボランティア活動など社会貢献を通しての気づきの教育推進
	年度目標	社会貢献・社会連携に関わっている学生を把握し増加させる。
	達成指標	ボランティア活動など社会貢献活動数をカウントする。
	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	S
理由	演習科目や実習科目あるいは課外活動において、NPO 団体、近隣の幼稚園、小学校あるいは各種運動部に実際に出向き、社会貢献や気づきの教育が行われている事例をカウントした。	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

	改善策	次年度もこれらの活動を引き続き奨励し持続させたい。
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	演習以外にも個人やグループでボランティア活動や社会・地域貢献活動は積極的に行われていると判断できる。
	改善のための提言	学部として引き続き活動事例を積極的に開示し、実施状況を広報することが求められる。

【重点目標】

今年度入学してきた新カリの学生たちが卒業するまでの4年間（2018-2021）の質保証を中期目標とし、「新カリへの移行」を年度目標したい。これらの目標の達成のためにシラバスあるいは年度計画（年次表）の課題を着実に実施していく。

【年度目標達成状況総括】

今年度は90分授業から100分授業への改革、また教職課程再認定へのカリキュラムなどに対応した、新カリキュラム体制がスタートされた。それぞれの評価項目の評点から振り返ると、初年度の経過としては比較的順調に移行できたと実感している。次年度は、この評価、評点を基準としてさらに体制の強化をはかりたい。

【2018年度目標の達成状況に関する大学評価】

スポーツ健康学部における2018年度の中期目標、年度目標及び達成指標は概ね適切に設定され、具体的なものになっていると評価できる。「年間を通して学部専任教員数が維持されていること」と「社会貢献・社会連携に関わっている学生を把握し増加させる」の2目標については目標を十分達成し、質の向上が顕著であった。他方、「授業相互参観、オンデマンド授業など学習意欲を高めるための工夫を推進する。卒業研究履修者を増加させる」については、年度目標の達成が不十分であった。

IV 2019年度中期目標・年度目標

No	評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】
1	中期目標	2018年度から始まった新カリキュラムの質保証に努め、現在の1年生が卒業年度を迎える2021年度には全学年において質の高いスポーツ健康学の学びを提供する。学部教育の集大成である卒業研究（演習Ⅲ）履修をとおして創造性教育を推進する。
	年度目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育の質保証のためにシラバスの検討を継続する。</li> <li>・専門演習Ⅰ・Ⅱの履修希望者を増加させる。</li> <li>・2020年度諸語初級者クラス開講の準備を進める。</li> </ul>
	達成指標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・質保証委員会によるシラバスチェックの実施</li> <li>・専門演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの履修希望者数の推移</li> <li>・諸語初級者クラスの開講準備を指標とする。</li> </ul>
No	評価基準	教育課程・学習成果【教育方法に関すること】
2	中期目標	各教員が、学生の学習意欲を高めるための工夫に取り組む
	年度目標	授業相互参観、アクティブ・ラーニングなど学習意欲を高めるための工夫を推進する。卒業研究履修者を増加させる。
	達成指標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業相互参観数</li> <li>・アクティブ・ラーニングへの取り組み状況</li> <li>・卒業研究数の推移</li> </ul> を指標とする。
No	評価基準	教育課程・学習成果【学習成果に関すること】
3	中期目標	2018年度から開始された新カリキュラムおよび100分授業移行後の教育効果を測定し評価する。
	年度目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必修科目では習熟度テスト</li> <li>・英語学力ではTOEFL</li> <li>・科目全体ではGPA</li> </ul> それぞれの平均値を向上させる。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

	達成指標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・習熟度テスト</li> <li>・TOEFL</li> <li>・GPA</li> </ul> それぞれの平均値を指標とする。
No	評価基準	学生の受け入れ
4	中期目標	アドミッションポリシーにもとづいた入試制度を準拠し、それぞれの入試制度で定められた受け入れ数を満たすよう努力する。特に留学生の募集人数である各学年2名を満たすよう努力しSGUを推進する。
	年度目標	それぞれの入試制度で定められた募集人数を満たす。特に留学生の募集人数を満たす。
	達成指標	それぞれの入試制度での入学者数を指標とする。
No	評価基準	教員・教員組織
5	中期目標	学部の教育水準を保つための規定教員数を恒常的に確保する。
	年度目標	年間を通して学部専任教員数を維持する。
	達成指標	年度末の学部専任教員数/年度始めの学部専任教員数を指標とする。
No	評価基準	学生支援
6	中期目標	学生の抱えている悩みや問題を早期発見し解決に導けるよう支援する体制づくりを整備する。
	年度目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員のオフィスタイムの明確化</li> <li>・学部におけるハラスメント等の相談窓口の明確化</li> <li>・学生モニター制度グループインタビューの実施</li> </ul>
	達成指標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オフィスタイム、相談窓口の明確化</li> <li>・グループインタビューの実施回数</li> </ul> を指標とする。
No	評価基準	社会連携・社会貢献
7	中期目標	ボランティア活動など社会貢献を通しての気づきの教育推進
	年度目標	社会貢献・社会連携に関わる教育の場を増やす。
	達成指標	社会貢献・社会連携に関わる授業科目数を指標とする。
<b>【重点目標】</b> <b>【教育課程・教育内容】</b> のうち、専門演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの履修希望者を増加させることを最も重視する。		

**【2019年度中期・年度目標に関する大学評価】**

2018年度に策定した中期目標、年度目標、達成指標が概ね踏襲されている。それらは適切でありかつ達成指標も具体的である。また評価基準として取り上げられた7項目のうち6項目については、2018年度の年度目標がS評価あるいはA評価だったことは評価できる。2019年度以降もその評価を伸ばすよう、またB評価の基準については執行部や質保証委員会からの提言を受けA評価以上を目指して、ともに努力していただきたい。

**【法令要件及びその他基礎的要件等の遵守状況】**

特になし

**【大学評価総評】**

スポーツ健康学部は、卒業生アンケート調査報告書等からも、学部満足度が高く、教育内容やカリキュラム、設備に関する満足度も高く、少人数による質の高い教育が展開されている。こうした高い評価が得られている背景に学部のたゆまぬ努力があったことは、自己点検・評価シートの記載内容からも十分うかがい知ることができる。ただし内部質保証の体制や取り組み強化策、FD活動の充実、あるいは4学生の学習時間のための方策などについては、インタビューにおいて様々な施策が実施されていることが確認されたものの、今後は自己点検・評価シートにおいて具体的に記載されることが望まれる。また2020年は東京オリンピック・パラリンピックの開催年でもあり、これらビッグイベントにスポーツ健康学部の学生達がボランティアとして参加することも考えられる。社会連携・社会貢献の一環として期待したい。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。